

福岡大学 医学会ニュース

No. 47

福岡大学医学会 福岡大学医学部内

福岡大学医学部と私



名誉教授 前生理学教授
河田 溥

福岡大学に身を置くようになってから春退職するまで、三十年もの歳月が足早に過ぎ去った。医学部が創設されて間もない昭和四十八年に着任したが、当初自分のような浅学非才な者が新設の大学医学部に奉職することになろうとは予想もしなかった。恩師や先輩や同僚や友人達に励まされて創設以来四十年の伝統を誇る福岡大学に勤務すること許され、今日まで支えられてきたことを深く感謝している。七隈の鳥帽子地区に医学部・病院の建物が完成したのち、後任の間もなくであり、当

てがわれていた本学文系ビルの一室から威容を誇る新築の医学部本館に移転してきた時の喜びは忘れ難い。新しい五階の自室の窓から油山や周囲の丘の緑を眺めながら、教育と研究に明け暮れる毎日を通じて、最初の頃の医進課程の講義は本学の講義室で行なわれたが、やがて医学部の講義室が整備されてからは専ら医学部で行なわれるようになった。生理学実習の設備は徐々に充実していったとは言え、「無」からの出発であったため軌道に乗るまでに時間を要した。何よりも研究室におけ

同慶の念に堪えない。また医学部同窓会「鳥帽子会」が卒業生諸氏の熱意のもとに目覚ましい発展を遂げつつあるのも喜ばしい限りである。若輩として赴任した私は第一生理の富田忠雄教授を始め、教室員の方々の指導とご協力を頂きながら研究生活に従事することができた。私の目指した研究テーマは「筋肉における興奮収縮連関」であり、富田教授が平滑筋を専攻されていたのに対して私も二生理では骨格筋と心筋を研究の対象とした。人に誇り得るような輝かしい業績を出すことはできなかったが、優れた先輩や高名な研究者の方が主宰されていたいくつかの研究グループに参加することを許され、そこでの交流を通じて大いに刺激を受けたり啓発されたりした。また、この間西日本生理学会のお世話を受けて頂いた。退職間際の本年三月

には第八十回日本生理学会大会の世話人の一人として生理学の今永一成教授のお手伝いをさせて頂き、不行き届きの多かった中にも滞りなく三日間の会を終えることができて感謝している。また在職期間中、何度か研究のための外国（ドイツ）出張を認めて頂いた福岡大学ならびに医学部の先生方に深く感謝申し上げる次第である。

大学は今や困難な時期を迎え、進むべき道を自ら模索しつつ選び取って行かなければならない。予想される試練を乗り越えてわが医学部が更なる発展を遂げられることを祈って止まない。



退職にあたって想いだすことなど



名誉教授 前内科学第四教授
吉田 稔

無我夢中といつては少し言い過ぎかも知れませんが、一生懸命走ってきても気がついてみると、いつの間にか三十年が経ち、福岡大学医学部、病院を去る日が来ていたというのが実感のような気がします。しかし思い返してみますと、この三十年間というものには決して短いものではなく私が医学部を卒業してから四十五年間の三分の二に当たるものです。

最初の頃は新しい医学部、病院ということで慣れないこともあり、多少戸惑いもありましたが、そのうち少しずつ慣れて来て、この三十年間の軌道に乗らず、いささか焦り気味でさえあるこのごろです。ただ、幸いなことに今のところ健康には恵まれているようなので、しばらく開店休業の状態であった寄生性昆虫（ネジレバネ目）のほうも調べなおしてみたいと思っています。実はこの群の分類の専門家は極めて少なく、世界で数人しか見当たりません。しかも、我が国には若い後継者はいまだに現れず、先々はどのようなことやらと危惧してさえいる現況です。世界で約五九〇種、日本産はたつた四九種（私はそのうちの四二種の記載・命名に関与しています）とこち

古稀に達して



名誉教授 前寄生虫学教授
木船 悌嗣

昭和三十五年八月、鳥取大学医学部に奉職して以来、久留米大学を経て昭和四十九年本学に赴任して本年三月に定年を迎えるまで、通算四十二年にわたり、医学教育に携わって来ましたが、決して短くはな

かった教職生活の結果として、幾つかの親子二代に講義をした思い出が残ったのは教員冥利に尽きるといつてよいのではないのでしょうか。その中には、前任の鳥取大学や久留米大学ではもちろんのこと、福

大で着任早々教えた方々の二世すれ混じっているのです。初めに、これまで同居していた長男一家が転任となり上京したので、四〇年ぶりの一人暮らしを再開することとなり、結構慣れない日常生活の雑事に追われて、なかなか仕事に名に関与していません」とこち

この他、最後の三年余り付属看護専門学校校長を兼任させていただきます。

次回の福岡大学医学会例会は、平成16年2月25日(水)に開催する予定です。

啄木の心



名誉教授 前泌尿器科学教授 有吉 朝美

「悲しき玩具、直筆ノート」

さで死去した。

という啄木最後の歌を綴ったノート(復刻版)を私は秘蔵している。啄木は一九一一年二月、慢性腹膜炎のため東大青山内科に入院し、一升五合(二・七リットル)の腹水を抜かれたあと日記には体重「一貫余り(四二・五kg)」と書いていた。退院後悪化した肺結核のため胸痛と発熱に呻吟し、貧困の中を翌年四月、二六歳の若

いた柔らかな几帳面な文字がそのまま復元されている。思わず眼が止まったのは次の句である。

「回診の医者の遅さよ！ 痛みある胸に手を置いて かく眼を閉つ」

この句は、最初に書いた言葉がペンで消されている。そこには、

「回診の医者の遅さよ！ 眼を閉じて 胸の痛みをぢつとこらへる」

「三浦という医者は横柄な奴だ。(往診に)来ると案内も乞わずに勝手に上がって来る。そうして図々しい物の言い方をしながら診察して、済むとまた碌に挨拶もせず帰っていく。癪にさわって仕方がない。」

「脈をとる看護婦の手のあたかき日あり つめたく堅き日もあり」

この句にも、二本線で訂正した跡がある。

啄木は、自分の苦痛を早く主治医に訴えたくて堪らなかったのだ。我慢して待つしかない患者の気持ちが身に沁みる。啄木の日記には、病棟の「青山博士の回診」とか、自宅に「三十代の丁寧な代診が来た」などのほか、次のような医者が描かれている。

「三浦という医者は横柄な奴だ。(往診に)来ると案内も乞わずに勝手に上がって来る。そうして図々しい物の言い方をしながら診察して、済むとまた碌に挨拶もせず帰っていく。癪にさわって仕方がない。」

定年前後



名誉教授 前筑紫病院内科第一教授 廣木 忠行

時の流れは年をとるにつれて加速されてゆくように、私が去る三月に定年退職してから、もう四ヶ月あまりも経ってしまいました。今では定年前後の慌ただしかった日々は遙か遠くに過ぎ去った出来事のように思われますが、筑紫病院内科第一・循環器科の医局長が準備してくれた退職記念講演会は、その後、四月中はみちのく

なお鮮明に憶えています。私の三十数年来の友人である石川恭三杏林大学名誉教授と岡山大学大江透教授が、見事な講演で花を添えてくれた後、この日のために集まってくれた多くの人達に囲まれた松舞台に立つて私の大学人としての務めを無事こたえることが出来ました。

定年後の学会活動は日本内科学会と米国心臓病学会

の弘前城や角館の桜めぐりなどで、のんびりと穏やかな日を過ごし、五月初めより那珂川病院の医療顧問として週四日出勤、三日休日のペーシングで内科診療に従事しています。その他に月一回の松本病院での循環器コンサルテーションを続けています。

定年後の学会活動は日本内科学会と米国心臓病学会

の弘前城や角館の桜めぐりなどで、のんびりと穏やかな日を過ごし、五月初めより那珂川病院の医療顧問として週四日出勤、三日休日のペーシングで内科診療に従事しています。その他に月一回の松本病院での循環器コンサルテーションを続けています。

定年後の学会活動は日本内科学会と米国心臓病学会

の弘前城や角館の桜めぐりなどで、のんびりと穏やかな日を過ごし、五月初めより那珂川病院の医療顧問として週四日出勤、三日休日のペーシングで内科診療に従事しています。その他に月一回の松本病院での循環器コンサルテーションを続けています。

定年後の学会活動は日本内科学会と米国心臓病学会

の弘前城や角館の桜めぐりなどで、のんびりと穏やかな日を過ごし、五月初めより那珂川病院の医療顧問として週四日出勤、三日休日のペーシングで内科診療に従事しています。その他に月一回の松本病院での循環器コンサルテーションを続けています。

定年後の学会活動は日本内科学会と米国心臓病学会

新風

平成15年4月1日付けで本学へ赴任、または昇格された方に自己紹介をしていただきました。

泌尿器科学主任教授 田中 正利

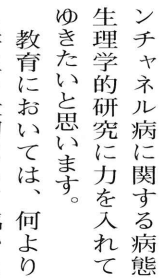


本年四月一日付けで有吉朝美主任教授の後任として、福岡大学医学部泌尿器科学講座の主任教授に就任いたしました田中正利です。私は昭和五十五年(一九八〇年)に鳥取大学医学部を卒業し、同年九州大学医学部泌尿器科学教室に入局しました。その後九州厚生年金病院などで臨床研修を行い、昭和六十年に九州大学に帰学し、本年三月まで同大学に勤務してまいりました。その間平成六年から二年間米国立衛生研究所(NIH)に留学し、エイズウイルスの薬剤耐性獲得機序に関する分子生物学的研究に従事しました。



生理学助教授 上原 明

このたび、生理学助教授に昇進いたしました。私は、九州大学理学部を卒業した後、三十歳直前までの長きにわたる大学院と大学院生活を過ごしました。その間、網膜の感覚生理学に携わり、理博の学位を得ました。福岡大学医学部生理学の助手赴任後は、今永一成教授のもと、心臓生理学の研究と基礎生理学の学生教育に従事しています。米ミシガン大学とシンシナティ大学に留学し、心筋や骨格筋や脳神経を含む様々な興奮性細胞種を対象に、細胞および分子レベルの電気生理の実験をしました。この時のCa²⁺交換体というトランスポーター蛋白からの起電性電流の初記録の仕事や、



内科学第四助教授 渡辺 憲太郎

昭和五十一年に九州大学

の弘前城や角館の桜めぐりなどで、のんびりと穏やかな日を過ごし、五月初めより那珂川病院の医療顧問として週四日出勤、三日休日のペーシングで内科診療に従事しています。その他に月一回の松本病院での循環器コンサルテーションを続けています。

定年後の学会活動は日本内科学会と米国心臓病学会

の弘前城や角館の桜めぐりなどで、のんびりと穏やかな日を過ごし、五月初めより那珂川病院の医療顧問として週四日出勤、三日休日のペーシングで内科診療に従事しています。その他に月一回の松本病院での循環器コンサルテーションを続けています。

定年後の学会活動は日本内科学会と米国心臓病学会

の弘前城や角館の桜めぐりなどで、のんびりと穏やかな日を過ごし、五月初めより那珂川病院の医療顧問として週四日出勤、三日休日のペーシングで内科診療に従事しています。その他に月一回の松本病院での循環器コンサルテーションを続けています。

定年後の学会活動は日本内科学会と米国心臓病学会

の弘前城や角館の桜めぐりなどで、のんびりと穏やかな日を過ごし、五月初めより那珂川病院の医療顧問として週四日出勤、三日休日のペーシングで内科診療に従事しています。その他に月一回の松本病院での循環器コンサルテーションを続けています。

定年後の学会活動は日本内科学会と米国心臓病学会

の弘前城や角館の桜めぐりなどで、のんびりと穏やかな日を過ごし、五月初めより那珂川病院の医療顧問として週四日出勤、三日休日のペーシングで内科診療に従事しています。その他に月一回の松本病院での循環器コンサルテーションを続けています。

定年後の学会活動は日本内科学会と米国心臓病学会

の弘前城や角館の桜めぐりなどで、のんびりと穏やかな日を過ごし、五月初めより那珂川病院の医療顧問として週四日出勤、三日休日のペーシングで内科診療に従事しています。その他に月一回の松本病院での循環器コンサルテーションを続けています。

定年後の学会活動は日本内科学会と米国心臓病学会

の弘前城や角館の桜めぐりなどで、のんびりと穏やかな日を過ごし、五月初めより那珂川病院の医療顧問として週四日出勤、三日休日のペーシングで内科診療に従事しています。その他に月一回の松本病院での循環器コンサルテーションを続けています。

定年後の学会活動は日本内科学会と米国心臓病学会

医学部歯科口腔外科の役割は、①医学部学生に対する歯・口腔疾患に関する教育、②歯科医師の卒後教育・研修、③日本医学会の第三十分科会である口腔科学に関する研究、④地域医療センターとしての歯科口腔外科診療の分担、⑤入院患者・大学職員に対する歯科診療、など多岐広範にわたっている。

卒業生が勤務する病院に必ずしも歯科があるとは限らない。歯や口の中が痛いと言ってきた患者に、「自分」は口の中のことには「自分」として断るわけにはいかない。最低限の歯科医学の知識は習得しておく必要がある。

一方、当科に入局してくる臨床研修歯科医は他学部で歯科医学を学んでいるが、一般医学の知識に乏しい。当科の臨床では、他科から様々な口腔疾患についての診療や意見を求められることが多い。また全身疾患を有する患者の歯科治療も多い。このような診療環境で、歯・歯周組織を含め、広く口腔全体を捉え、さらに全身の一部としての口腔

を診るこの重要性を考慮した教育・研修を実践している。研究面では、歯学部でできる研究は歯学部任せ、医学部でできない研究を目標としないかと予想している。また義歯や顎骨外傷などから生じる咬合の問題は、食事や会話の障害に直結するのみなならず、様々な心身の不定愁訴につながることも多く、歯科特有の問題として重視される。

医療の中における歯科口腔外科の特殊性と独自性は時代の流れとともに複雑に変遷してきた。当教室は、各科との連携を保ちながら口腔疾患の診療と口腔科学としての歯科口腔外科科学の教育・研究を実施する医学の専門科としての認識と期待を担っている。

教室紹介

歯科口腔外科



- 金賞(1名) 小川 正浩 先生 Novel Electrophysiologic Parameter of Dispersion of Atrial Repolarization : Comparison of Different Atrial Pacing Methods
- 銀賞(2名) 五十音順
- 阿部 裕典 先生 Preparation of recombinant MK-1/Ep-CAM and establishment of an ELISA system for determining soluble MK-1/Ep-CAM levels in sera of cancer patients
- 山内 靖 先生 Opposite effects of thrombospondin-1 via CD36 and CD47 on homotypic aggregation of monocytic cells

福岡大学医学会 第48回例会および第26回総会(報告)

●日時: 平成15年10月22日(水)17時から ●場所: 医学部臨床大講堂

1. 第48回例会
進行 三角佳生 先生
1) 開会の辞 医学部長 満留昭久 先生
2) 会長挨拶 阿部裕典 先生
3) 福岡大学医学紀要第29巻優秀論文賞授賞式
4) 福岡大学医学紀要第29巻優秀論文賞講演
講演者 上野あると 先生 座長 黒木政秀 先生
5) 第5回福岡大学医学会賞受賞論文講演
講演1 講演者 阿部裕典 先生 座長 黒木政秀 先生
講演2 講演者 小川正浩 先生 座長 羽啓二郎 先生
講演3 講演者 山内 靖 先生 座長 山下裕一 先生
6) 第5回福岡大学医学会賞金賞論文投票

2. 第26回総会
進行 畠 博 先生
1) 議事
課題
①報告事項
②平成14年度会計報告および平成15年度予算案
③その他

3. 第5回福岡大学医学会賞授賞式
進行 三角佳生 先生
1) 投票結果
2) 授賞式
3) 閉会の辞

学位取得

次の方は、平成15年3月20日付けで福岡大学より医学博士を授与されました。

課程修了による学位取得者	
太田 栄治	(人間生物系専攻)
劉 新瑜	(感染生物系専攻)
宮嶋 哲匡	(病態構造系専攻)
田中 敏裕	(病態構造系専攻)
中村嘉一郎	(病態構造系専攻)
平川 栄二	(病態構造系専攻)
成富 一哉	(病態構造系専攻)
盧 成吉	(病態構造系専攻)
今野 俊和	(病態構造系専攻)
濱崎 慎	(病態機能系専攻)
田中 雅博	(病態機能系専攻)
一番ヶ瀬 崇	(病態機能系専攻)
神戸 太一	(病態機能系専攻)
藤沢 基之	(病態機能系専攻)
福岡 五龍	(病態機能系専攻)
今給黎 尚幸	(病態生化学系専攻)
竹内 一馬	(病態生化学系専攻)
太田 岳暁	(病態生化学系専攻)
曲 紅	(社会医学系)

論文提出による学位取得者	
加藤 圭	病理学研究生
森本 順子	内科学第四研究生
西川 宏明	循環器科医員
渡辺 一夫	学外者
岩橋 満愛	衛生学助手

医師国家試験に104名が合格

第97回医師国家試験(3月15~17日実施)に120名が受験し104名(新卒100名・既卒4名)が合格した。全体の合格率は86.7%であったが新卒者の合格率は98%で、私立大学29校中第3位と昨年以上の好成績を収めた。合格者氏名および研修先は次のとおり(福大病院は科名のみ)。

重本 典子	精神神経科	松嶋 悠	皮膚科
篠田 洋介	救命救急センター	松本 武史	広島大学内科
柴田 志保	麻酔科	三池重希子	腎臓内科
柴田 亮輔	外科第二	三上 隆一	筑紫病院外科
塩飽 洋生	外科第一	溝淵 剛士	愛媛大学内科第二
新屋 智志	外科第一	森井 誠士	循環器科
菅 達人	岡山大学眼科	森田 誠	救命救急センター
瀬戸上貴資	小児科	山口 東平	長崎大学内科第一
宗玄 圭司	消化器科	山部聡一郎	熊本大学整形外科
高宮 陽介	循環器科	山本 希治	熊本大学整形外科
竹之下博正	血液・糖尿病科	吉田 至剛	長崎大学産婦人科
竹本光一郎	脳神経外科	フシジヨウ	整形外科
田中 心	神戸大学内科	児玉 梨恵	小児科
田中 博子	九州大学整形外科	小野陽一郎	筑紫病院内科第一
田中 真理子	精神神経科	河村 俊彦	鹿児島大学産婦人科
田中 美紀	九州医療センター内科	佐藤 伸隆	熊本大学外科第二
田中 祥継	整形外科	田中 亮介	筑紫病院外科
藤解 邦生	広島大学外科第一	團 理	千葉大学呼吸器内科
土倉潤一郎	聖リタ病院ハートセンター	永田 隆信	久留米大学第三内科
中浦 淳	皮膚科	野田 大輔	脳神経外科
長沼沙都子	腎臓内科	福原 康介	循環器科
縄田 智子	消化器科	藤本 実	麻酔科
縄田 秀幸	精神神経科	松原 周子	筑紫病院脳神経外科
西平 智和	形成外科	溝口 資夫	鹿児島大学第二外科
西俣 伸亮	筑紫病院内科第一	宗像 光輝	心臓血管外科
二宮 風夫	筑紫病院内科第一	八坂 典子	皮膚科
二之宮信也	小児科	山崎 靖人	小児科
濱中和嘉子	外科第二	渡辺栄一郎	熊本大学病院ハートセンター
張村 貴紀	筑紫病院外科	高畑 正文	今年度入局しない
日浅 綾	九州大学心療内科	中島 大毅	洛和会・音羽病院(京都府スパーローテット)
平井 健	九州大学麻酔科	水野 裕助	若草病院
大田 岳晴	産婦人科	原 潤	眼科
大坪 郁子	精神神経科	山道 光作	形成外科
大田 拓人	形成外科	松井 郁	耳鼻咽喉科
岡田 明子	大阪大学皮膚科	野々熊真也	放射線科
小田山 剛	眼科	日野 頼真	皮膚科
河原 純一	眼科	正木 稔子	日本大学耳鼻咽喉科
神辺 真智	血液・糖尿病科		
菊地 幸子	東京医科大学精神科		
北川 裕	今年度入局しない		
北辻 智美	九州大学第二内科		
木下 浩一	整形外科		
國貞 佳世	京都大学小児科		
久保田典子	九州大学麻酔科		
熊谷 尚子	循環器科		
藏本 直史	京都大学眼科		
古賀 洋介	泌尿器科		
小島 大望	外科第一		
齋藤 文彦	熊本大学産婦人科		
佐藤 啓一	皮膚科		
佐藤 啓介	外科第二		
佐野 陽平	京都大学消化器内科		
志賀 悠平	循環器科		

長い間
ありがとう
ごさいます

- (平成十五年三月一日〜九月三十日まで退職された方)
- 河田 博 教授(生理学)
 - 木船 悌嗣 教授(寄生虫学)
 - 吉田 稔 教授(内科学第四)
 - 有吉 朝美 教授(泌尿器科学)
 - 廣木 忠行 教授(筑紫病院内科第二)
 - 諫山 照刀 助教授(整形外科)
 - 辻 祐治 助教授(泌尿器科学)
 - 亀井 博之 講師(神経内科・健康管理科)
 - 国立療養所筑後病院へ
 - 酒井 憲見 講師(第二外科)
 - 川浪病院へ
 - 牧野 康男 講師(産科婦人科)
 - 中島 雅志 講師(神経内科・健康管理科)
 - 東京労災病院へ
 - 櫻井 俊弘 講師(筑紫病院消化器科)
 - 芦屋中央病院へ
 - 加藤 整 講師(眼科)
 - 川原 克信 助教授(外科学第二)
 - 大分医科大学へ(腫瘍病態制御学教授)
- (以上、三月三十一日付け)
- (以上、四月三十日付け)
- (以上、五月三十一日付け)
- (以上、七月三十一日付け)
- (以上、八月三十一日付け)